

部会発表④

主任児童委員部会

「民生委員・児童委員と主任児童委員の

連携について」

主任児童委員部会は、「民生委員・児童委員と主任児童委員の連携について」というテーマで発表しました。

担当区域を持たない主任児童委員にとって、民生委員・児童委員との連携は必要不可欠である中、民生委員・児童委員からは「主任児童委員のことがよくわからない」、また、主任児童委員からは「主任児童委員の活動が理解されていない気がする」との声を耳にします。

秩父市とふじみ野市の事例から、民生委員・児童委員と主任児童委員の連携の大切さと伝えることの重要性を感じ、今後について、意識すべきことを主任児童委員部会の取り組みと併せて考えました。

市町村事例

◇ 秩父市

駅で泣いている生徒に民生委員・児童委員が声をかけ、いじめられているとの話を聴き、主任児童委員へ連絡した。

主任児童委員は速やかに学校へ連絡した。

学校もすぐに対応、いじめられた生徒宅を訪問し事情を聴く。いじめた生徒や関係生徒を呼び、理由等を聞き指導した。

いじめられていた生徒も毎日登校できている。

支援・問題解決につながる

市町村事例

◇ ふじみ野市

分科会での他市町村の話参考に働きかける。

会長会に出席できるようになり会長と顔つなぎができた。

要保護児童対策協議会の内容を主任児童委員と担当地区民生委員・児童委員と共有してよいとルール改正が行われた。

市から民生委員・児童委員に話があったフードパントリー事業を主任児童委員に依頼してもらえるようになった。

情報共有・活動の幅が広がる

定例会は、主任児童委員の活動を伝えることができると大きな機会です。定例会を通して周知・理解を図り、民生委員・児童委員と一緒に活動することにより、情報共有する機会を

増やしていくことが大切だと考えます。主任児童委員部会の活動につきましても、すべての委員に伝えることができるよう考えていきたいと思えます。

そして、民生委員・児童委員と主任児童委員の合同研修会を開催し、知識を身につけ、こどもたちを取り巻く問題について一緒に考える機会を作っていられるように努めたいと思います。

主任児童委員活動ハンドブックに関しても、状況の変化に対応して内容を見直し、主任児童委員の活動が理解でき、より活用しやすいものにしていきたいと思えます。

引き続き主任児童委員部会として、民生委員・児童委員と主任児童委員の相互理解を図り、連携を深めて支援につなげられるようにしていきたいと思えます。

発表後の質問・回答

① ハンドブックの活用のしかたについて勉強会を実施している桶川市の取り組みを紹介しました。

② 子育て支援活動や連携について他の市町村事例も知りたい

子育て支援や学校との連携について、三郷市の取り組みを紹介しました。

③ 分科会テーマの事例について知りたい(勉強したい)

事例は個人情報であるため周知は難しいので、今後研修会等で事例検討を行えるようにしていきたいと思えます。

なお、桶川市と三郷市の取り組みについてもお知らせできるよう、主任児童委員部会で検討いたします。

今後の展望

参考となる事例があっても、それを周知するには許可が必要で、守らなければならないこともあります。その中でいかに情報共有していくか、大きな課題です。4つの分科会それぞれの視点で考え、お伝えする方法を検討していきたいと思えますが、やはり自分自身で聴き、感じ、考えることが大切であると、県

大会を終えてあらためて感じました。まずは「知ってもらったこと」です。地域の皆様や学校をはじめとする関係機関の方々にも、主任児童委員のことを知ってもらえるよう、主任児童委員部会として考えていきたいと思えます。(直井 千秋)



(発表・写真右) 部会長 直井 千秋
(進行・写真左) 相談役 磯部 恒子